

(様式第2号)

地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

提出区分	実績	整理番号	10	課題区分	B	令和8年4月2日	
横断的な課題							
地域重点政策	ものづくり・観光・農林業振興					諏訪地域振興局	
実施機関	諏訪地域振興局			担当課	所属	商工観光課	
事業名	ものづくり地域としてのエコシステム構築推進事業				電話	0266-57-2922(内線2112)	
					E-mail	suwachi-shokan@pref.nagano.lg.jp	
事業概要等	目的 (目指す姿)	「構造的な質上げ」「成長と分配の好循環」を実現するため、地域企業の付加価値労働生産性向上を支援する					
	現状と課題	令和6年度は先進企業の見学及び企業人材交流の取組を通じ、地域企業に対し生産性向上に取り組んでいただく動機づけの場を提供した。 事業実施後の参加者アンケートでは、「自社の生産性向上の取組は遅れている」という感想が大多数であり、また、参加者からは「学ぶ場」を希望する声が多かったことから、地域企業のさらなる生産性向上を支援する必要がある。					
	内容 (変更後の内容)	関係機関と連携し、省力化・効率化等に先進的に取り組む事業所でのフィールドワークや、他社の事例・効果等について学ぶ機会を設け、地域企業の実産性向上及びこれらを担える人材の育成を図る。 対象：諏訪地域の事業者(のべ38社) 1 生産性向上に資するベンチマーク企業の見学学習会(実施日：R7.11.12 見学先：オリオン機械株) 省力化・効率化等に取り組むベンチマーク企業を見学するとともに、意見交換を行い生産性向上に対する自社の課題抽出や取組を共有する。 2 省力化・効率化等の自社展開を図る勉強会(実施日：R8.1.21 R8.3.3 会場：諏訪合同庁舎講堂) (1) ベンチマーク企業の見学を通じて得た気づきや課題をもとに、自社への展開を目指す勉強会(講演及びワークショップ)を行う。(2回実施) (2) (1)の講師とワークショップ開催を支援するコーディネーターとの意見交換(実施時期R7.12.24 会場：諏訪合同庁舎) (1)の勉強会をより効果的なものとするため、勉強会の開催に先立ち、ワークショップにおけるグループワークで、各グループをリードする諏訪圏ものづくり推進機構のコーディネーターと講師との意見交換を実施する。 (3) (1)の勉強会における報告会リハーサル(実施日：R8.3.3 会場諏訪合同庁舎講堂) (1)の勉強会における報告会で、講師コメントのリアルタイム文字起こしおよび配布実施に向け、その正確性の担保と、配布フローの円滑な運用を確認するため、当日本番前にリハーサルを実施する。					
	事業期間	R7.5 ~ R8.3					
事業費等	(単位：円)						
	事業を構成する細事業名等	実施内容	計画(実績)額	備考			
	ものづくり地域としての エコシステム構築推進事業	貸切バス賃借料	111,876	貸切バス往復			
		講師謝金	115,500	ワークショップ2回開催 謝金：6,600円/h×6.5h×2回 報告会リハーサル 謝金：6,600円/h×0.5h 意見交換 謝金6,600円/h×4h			
		講師旅費	37,620	旅費：12,540円 (刈谷～上諏訪)×3回			
		消耗品代	10,000	ワークショップ開催用 コピー用紙及びボールペン、ハサミ、ホチキス等			
合 計		274,996					
指標及び達成状況	成果指標		目標値	成果	達成状況		
	参加者数(事業者等)		30人以上	のべ65人	● 達成 ○ 一部達成 ○ 未達成		
	参加者満足度(5段階中4以上)		80%以上	100%			

事業実績・成果	○先進企業見学学習会 ＜事業実績＞ 令和7年11月12日 オリオン機械株式会社 須坂インター工場（須坂市）にて見学学習会を開催 工場見学の後、事業者同士の意見交換を実施 ＜成果＞ 定員30名に対し28名が参加 満足度調査結果 アンケート回答者全員が「非常に満足」・「満足」と回答（26名回答） 先進的な取組を行う企業の現場を実際に見学したことで、参加者は生産性向上や業務改善に対する意識を高めることができた。AGVや自動化設備、見える化の工夫、社員教育など、多様な取組を具体的に確認できた点が大きな学びとなった。デジタル技術を目的化せず、現場に最適な方法を選択する姿勢は良い見本となり、今後の自社での取組に活かしたいという前向きな声が多く寄せられた。 ○企業人材交流ワークショップ ＜事業実績＞ 令和8年1月21日（第1回）、3月3日（第2回）と全2回構成で「気づき」をテーマとしたワークショップを開催 （株）UWホールディングス加古真氏による講演と、参加者が互いに気づきを話し合うグループ討議、第2回では実際に行った改善内容の報告会を実施。 ＜成果＞ 定員30名に対し27名が参加（第1回 20名、第2回 17名） 満足度調査結果 第1回、第2回ともアンケート回答者全員が「非常に満足」・「満足」と回答（第1回19名、第2回16名回答） 第1回・第2回を通じて、講演およびワークショップは概ね高い評価を得ており、生産性向上を自分事として捉える意識醸成に大きく寄与したと考えられる。第1回では課題認識と気づきを得る契機となり、第2回では実践の共有と振り返りを通じて学びの定着が図られた。特に他社・他業種との交流は相互刺激となり、行動変容を後押しした。加えて、発表や対話の機会を通じて主体性が高まり、今後の継続的な改善活動につながる素地が形成されたと評価できる。 ●総括 以上の取組を通じ、先進事例の見学や講演・交流を通して生産性向上を自分事として捉える意識が高まり、主体的かつ継続的な改善活動につながる基盤が形成された。
今後の方向性	昨年度に引き続き今年度も開催し、一定の成果を出すことができたが、生産性向上の取組にはゴールが無い。参加者からも行政に期待することの1つとして、「見学会や意見交換の場の提供」との声が多数あったため、次年度以降も継続的に取り組めるよう検討する。